



龍野地区まちづくりビジョン

2022 ▶ 2036



たつの市

龍野地区まちづくりビジョン検討委員会



ほどよく賑わいがあり生活と観光が共存するまち龍野をめざして



本市には、醤油やそうめん、皮革等の地場産業をはじめ、海産物や農産物、自然や歴史、文化等、魅力的な観光資源が数多く存在しています。

なかでも、龍野地区は、江戸時代から昭和初期までに建てられた建築物等が軒を連ね、中世を起源とする城下町の風情を今なお色濃く残す歴史的な町並みが特徴的で、今後さらなる来訪者の増加が期待されているまちです。

一方で、本地区においては、住民の高齢化と建物の老朽化が急速に進行し、空き家・空き地が増加するとともに、地区住民の買い物先となる小売店の減少によって生活利便性が低下するなど、様々な問題を抱えています。

こうした状況のなか、地区住民の継続したまちづくり活動が実を結び、令和元年12月23日に地区の一部が国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。

これを契機として、より一層の町並み保存と活用、並びに地区の活性化を図ることを目的に、まちづくりの指針となる「龍野地区まちづくりビジョン」を策定しました。

本計画では、まちの魅力と活力、住民生活の質を向上させるため、検討委員会やワークショップ、アンケートやヒアリングによる調査等で多くの方々からいただいたご意見に基づき、「ほどよく賑わいがあり 生活と観光が共存するまち龍野」を地区のめざす将来像として、その実現のための具体的な取組を示しています。

地区住民、関係団体、事業者等が連携し、協働によるまちづくりを推進することで、今後、地区の地域資源を生かした魅力的なまちが形づくられていくものと期待しています。

行政といたしましても、本計画を龍野地区におけるまちづくりの道標とし、共に手を携えて事業を推進することにより、住民一人ひとりが輝くまちの実現をめざします。

最後に、本計画策定に当たり、熱心にご審議いただいた検討委員会委員の皆様をはじめ、ワークショップやアンケートなどでご意見、ご提言をいただいた皆様、作成にご協力いただいた全ての方々に心から感謝を申し上げます。

たつの市長 **山本 実**

力を合わせて 新たな龍野へ

このたび、たつの市と龍野地区まちづくりビジョン検討委員会が協同して、「龍野地区まちづくりビジョン」を策定しました。ここに、5年後、10年後、15年後の龍野地区のまちの将来像と、それを実現するためのまちづくり方針、具体的な取組内容を示しています。

歴史・文化の色濃い、龍野の暮らしや町並みを守り育てるために、どうすれば良いか。何を守り、何を育てていくべきか。地区住民へのアンケートや関係団体へのヒアリングを通じて得たご意見を踏まえて、地区内住民及び各種団体からなる検討委員会で議論を重ねました。そして、めざすべき基本的な方向と、まちづくりの具体的な取り組みが浮かび上がりました。それは、「ほどよく賑わいがあり 生活と観光が共存するまち」であり、住民と来訪者が「出会い」を大切にし、歴史文化を守りながら、新たな価値を生み出せるまち、です。

委員会での議論と並行して、まちづくりの取組を具体化するために、5つの基本柱に沿ったテーマ別にワークショップが開催され、さらに、ワークショップでは議論しきれなかったことを話し合う「番外編」も開催されました。そこで、「わがごと」としての熱い議論が繰り広げられ、次なる展開が見えてきました。これらの議論を踏まえて、活性化計画を練り上げ、5つのまちづくりの基本柱、重点プログラムとしてとりまとめました。

検討委員会の皆様、ワークショップにご参加いただいた皆様には、基本構想策定の段階から、深い議論を重ねていただきました。ご協力いただいた全ての皆様方に厚くお礼申し上げます。

本計画をご覧になればお分かりになりますが、すべての取組は個々に独立しているのではなく、有機体のようにつながっています。その実現を図るには、地区内外のさまざまな主体による連携・協働に基づいた総合的な取組が必要となります。いかにすれば、まち全体の資源を最大限に生かせるか。実行部隊の組織づくりも含めて、さらなる展開も期待されます。

新しい龍野に向かう道筋は示されました。これからが本番です。しっかりと力を合わせて、一歩ずつ歩んでまいりましょう。



龍野地区まちづくりビジョン検討委員会会長
京都大学大学院准教授

山口 敬太

I 基本構想編

目 次

序章 まちづくりビジョンの概要	1
1. まちづくりビジョン策定の背景と目的	1
2. 計画の期間	2
3. 計画の区域	2
第1章 龍野地区の現況と課題	3
1. 龍野地区の概要	3
2. 龍野地区の観光状況	10
3. 龍野地区のまちづくりの経緯	12
第2章 まちづくりに対する意見	15
1. 地区内住民及び各種団体の意向	15
2. 来訪者がみる龍野地区	20
3. まちづくりワークショップ	23
第3章 龍野地区のめざすべき基本方向	30
1. 龍野地区の現状と課題の整理	30
2. 龍野地区の将来像	31
3. 龍野地区のまちづくりの基本柱	33
4. ゾーニング	34

Ⅱ 活性化計画編

目 次

第1章 活性化計画作成の目的	35
第2章 アクションプラン	36
1. 施策の体系	36
2. 個別アクションプランの構成	37
3. 個別アクションプラン	38
第3章 龍野地区の未来のイメージ（将来像）	74
第4章 重点プログラム	76
1. ゾーン毎の主な取組	76
2. 協働の取組	83
3. 地区内交通計画	84
4. 来訪者の回遊ルート	86
5. 地区内サイン・案内板計画	87
第5章 今後の展開	88

Ⅲ 資 料 編 目 次

1. 龍野地区まちづくりビジョン検討委員会設置要綱・・・・・・・・・・	90
2. 龍野地区まちづくりビジョン検討委員会委員名簿・・・・・・・・・・	92
3. まちづくりワークショップ参加者名簿・・・・・・・・・・	93
4. 龍野地区まちづくりビジョン策定に係る協議経過・・・・・・・・・・	95
5. まちづくりワークショップの取組・・・・・・・・・・	97
6. まちづくりワークショップ参加者の意見・・・・・・・・・・	111

I 基本構想編

序章 まちづくりビジョンの概要

1. まちづくりビジョン策定の背景と目的

龍野地区は、約 1,300 年前の『播磨国風土記』にその名が登場して以来、中世、近世においては城下町として発展してきました。特に、近世以降は、醸造産業が発達し、商業の中心地としても栄えました。

また、本地区は、近世の町割りに沿って、町家、寺院、醤油蔵、武家屋敷等がある歴史的な町並みや、鶏籠山、的場山、白鷺山の三山と揖保川に代表される豊かな自然が残され、城下町の風情が守られてきました。このような城下町の風情とともに、本地区は、三木露風の生誕地でもあることから「童謡の里」として全国的に知られています。

さらに、うすくち醤油や手延素麺といった特産品の知名度も高く、地区内では、町家や醤油蔵などを活用した「オータムフェスティバル in 龍野」や「龍野さくら祭」「町ちゅう美術館」などのイベントも開催されています。

一方で、小宅地区に大型量販店等が立地したことにより、本地区は、地元住民向け小売業が衰退するとともに、高齢化が進み、生活利便性の低下や空き家の増加といった問題を抱えています。

このような状況において、地区住民のまちづくり活動が継続して行われたことにより、令和元年12月23日に龍野地区の一部が国の重要伝統的建造物群保存地区（以下「重伝建地区」という。）に選定されました。このことにより、来訪者の増加や新しい店舗の展開など新たなまちづくりの方向性が見えてきています。

本計画は、龍野地区が重伝建地区に選定されたことを契機に、賑わいと活力を取り戻し、住民の日常生活とバランスを取りながら発展することを目的として策定するものです。

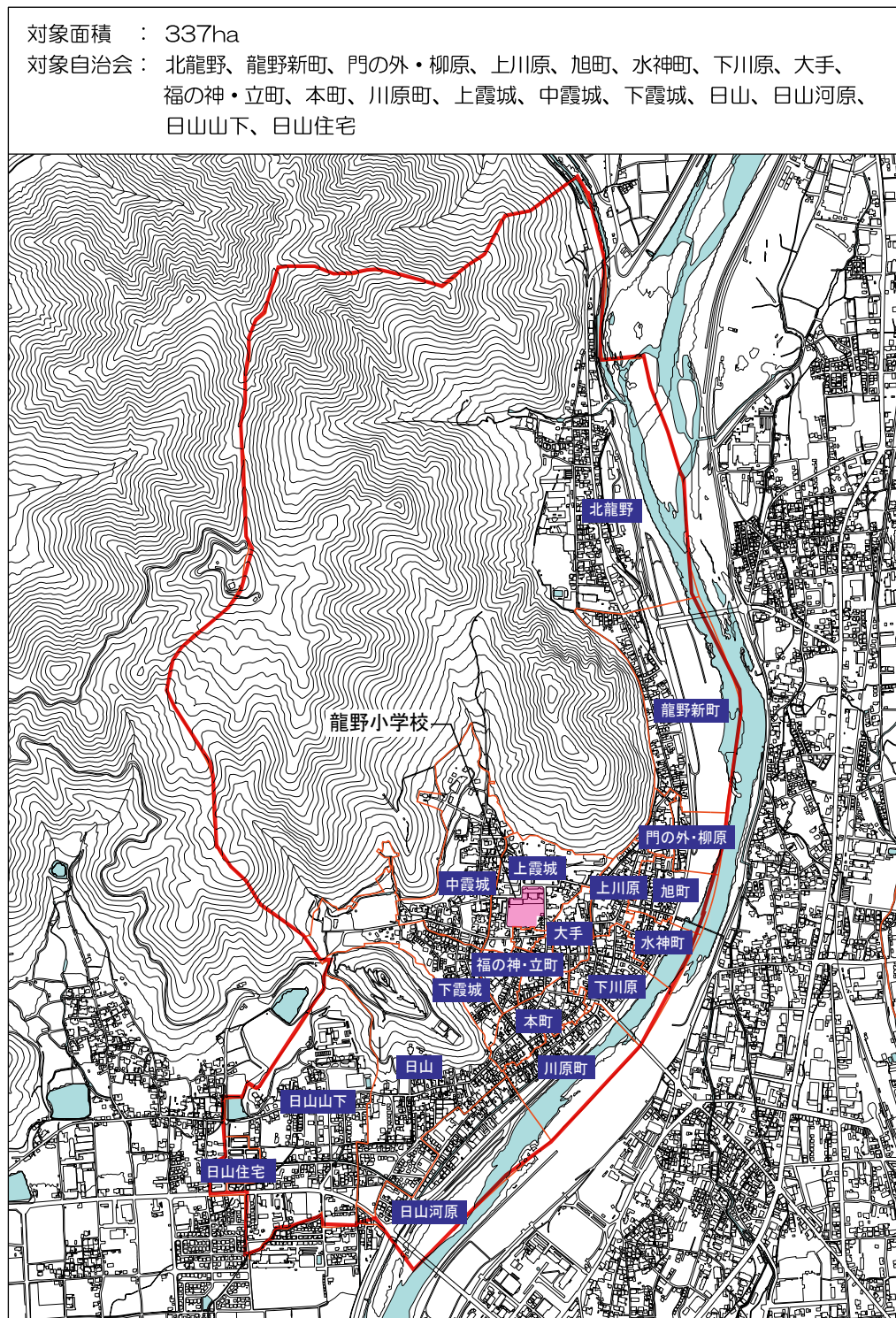


2. 計画の期間

本計画の期間は、令和4年度（2022年度）から令和18年度（2036年度）までとします。

3. 計画の区域

本計画の区域は、龍野小学校区全域（＝龍野地区）とします。



第1章 龍野地区の現況と課題

1. 龍野地区の概要

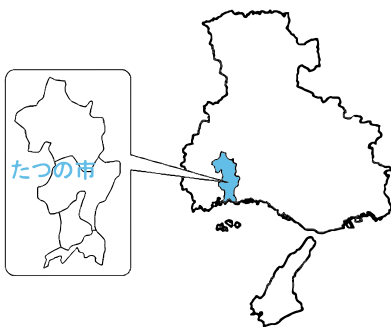
(1) 位置及び交通

龍野地区は、たつの市のほぼ中央に位置し、鶏籠山、的場山、白鷺山の三山と揖保川に囲まれた南東向きの緩やかな傾斜地にあり、武家地は扇状地に、町人地は沖積低地と川沿いの自然堤防の上に形成されています。

竜野橋から東に約 1km（徒歩で約 12 分）の位置に JR 姫新線本竜野駅があります。揖保川沿いを南西に約 5km 下ると、JR 山陽本線竜野駅があります。

また、たつの市では本竜野駅、竜野駅を経て市域の南北を結ぶ「たつの市コミュニティバス」を運行しています。

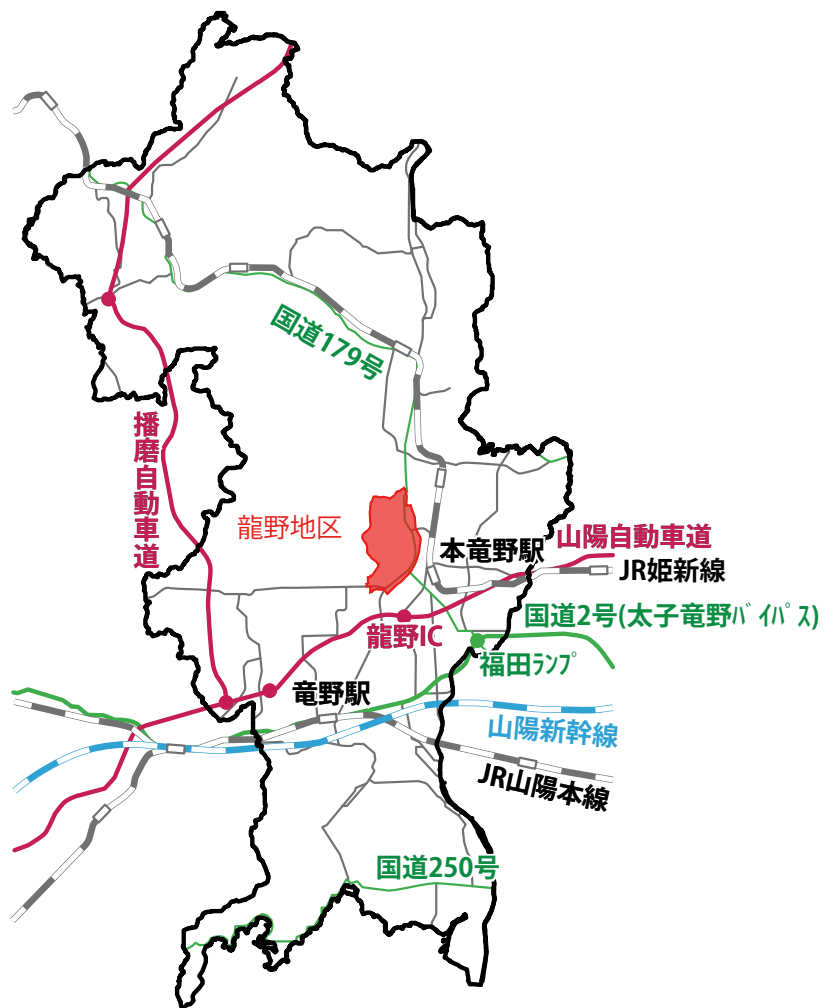
本地区から南へ約 2km（車で約 5 分）の位置に山陽自動車道の龍野インターチェンジがあります。



たつの市位置図



龍野地区位置図



広域交通網

（２）人口・世帯数

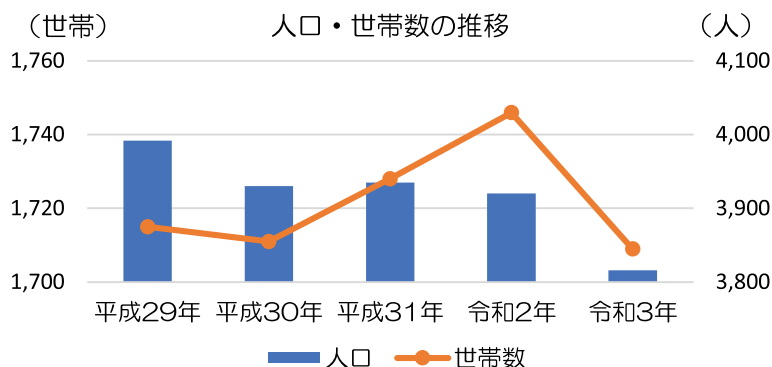
（人口・世帯数の現況）

住民基本台帳に基づく令和３年３月３１日現在の本市の人口は 75,166 人、世帯数は 30,911 世帯です。このうち龍野地区は 3,816 人、1,709 世帯で、龍野地区の全市に占める人口比率は 5.1% となっています。

人口及び世帯数の推移

（各年３月３１日現在 住民基本台帳）

	平成 29 年	平成 30 年	平成 31 年	令和 2 年	令和 3 年
人口 (人)	3,992	3,930	3,935	3,920	3,816
世帯数 (世帯)	1,715	1,711	1,728	1,746	1,709



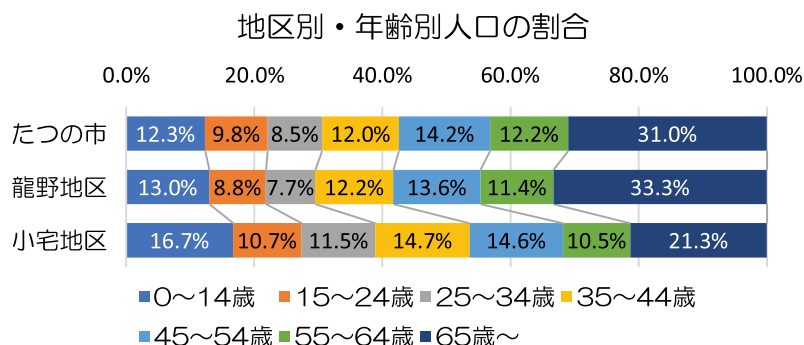
（高齢化率）

龍野地区の高齢化率は 33.3%で、たつの市全体の高齢化率 31.0%に比べて若干高くなっています。また、小宅地区と比較すると、0～14 歳と 25～34 歳の割合が特に低く、逆に 65 歳以上の割合が特に高くなっています。

年齢別人口の割合

（令和３年３月３１日現在 住民基本台帳）

	0～ 14 歳	15 ～24 歳	25 ～34 歳	35 ～44 歳	45 ～54 歳	55 ～64 歳	65 歳～
たつの市	12.3%	9.8%	8.5%	12.0%	14.2%	12.2%	31.0%
龍野地区	13.0%	8.8%	7.7%	12.2%	13.6%	11.4%	33.3%
小宅地区	16.7%	10.7%	11.5%	14.7%	14.6%	10.5%	21.3%



(3) 空き家の状況

令和3年1月1日現在、龍野地区内には149戸の空き家が存在することが判明しています。状態の良いものもありますが、中には長年空き家になったままで管理不全な状態であるものも見られます。

龍野地区の空き家率は5.5%で、たつの市全体の空き家率2.7%と比較して、高くなっています。また、龍野地区内には空き家等の解体により、空き地となった土地も点在しています。

龍野地区の空き家の状況

(令和3年1月1日現在)

字名	空き家の数※2	用途地域
北龍野※1	14 戸	1 中高/2 中高
門の外	6 戸	1 中高/近商
柳 原	6 戸	1 中高/近商
上川原	8 戸	1 中高/近商
旭 町	19 戸	近商
水神町	8 戸	近商
下川原	9 戸	近商
大 手	4 戸	1 中高/近商
福の神	5 戸	1 中高
立 町	3 戸	1 中高/近商
本 町	10 戸	1 低専/1 中高/近商
川原町	7 戸	近商
上霞城	5 戸	1 中高/近商
中霞城	10 戸	1 低専
下霞城	7 戸	1 低専
日 山※1	28 戸	1 中高/2 中高/1 住居
合計	149 戸	—

たつの市全体と龍野地区の空き家の状況の比較 (令和3年1月1日現在)

	家屋の数※3	空き家の数※2	空き家率
たつの市	59,452 戸	1,617 戸	2.7%
龍野地区	2,688 戸	149 戸	5.5%

※1 空き家の数は、字別に集計したもの。「北龍野」には北龍野と龍野新町を含み、「日山」には日山、日山河原、日山山下、日山住宅を含む。

※2 たつの市空き家データベースによる。

※3 たつの市固定資産課税台帳による。

(4) 関連計画

たつの市都市計画マスタープラン

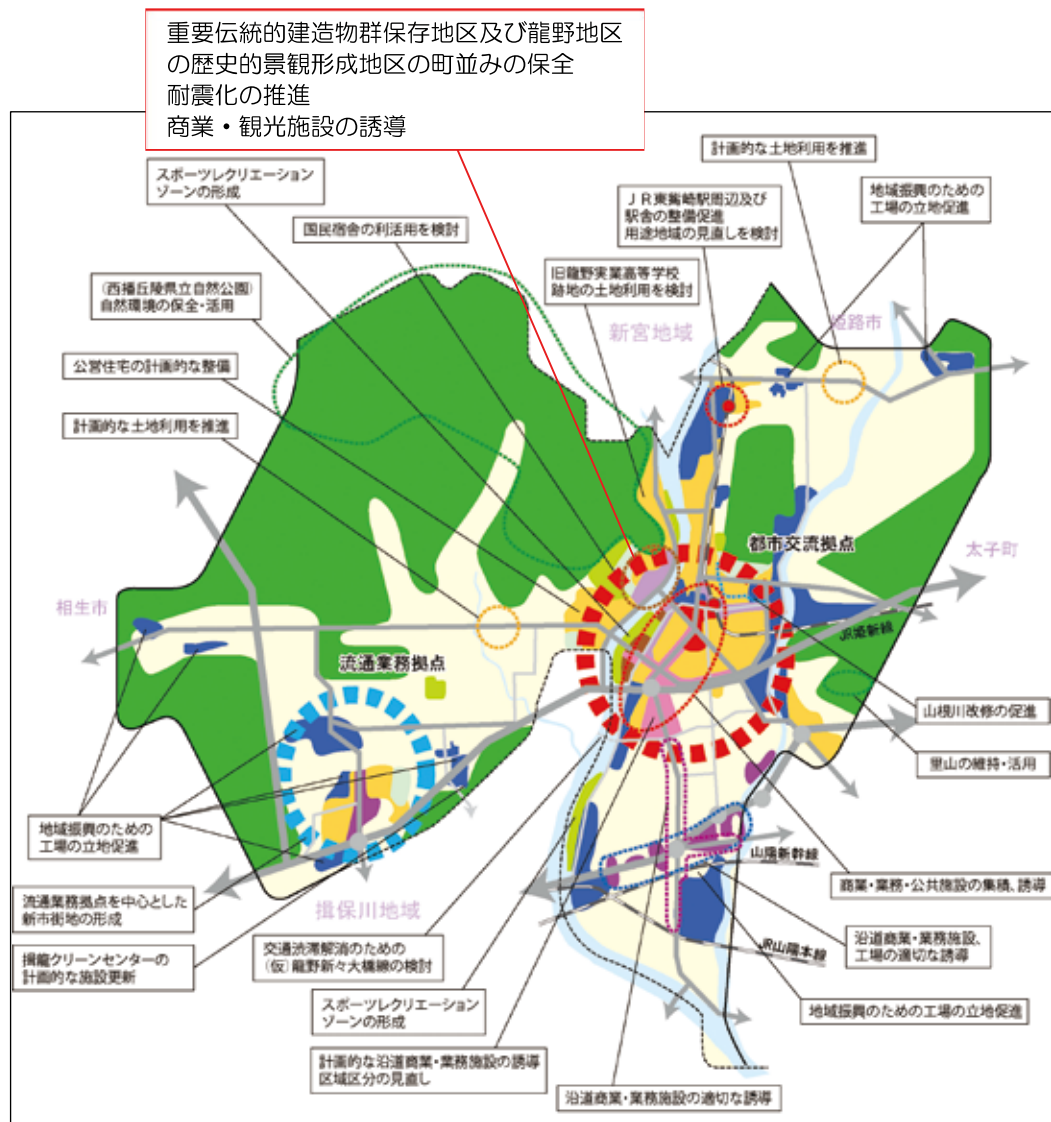
龍野地区の一部は、都市計画マスタープランにおいて都市交流拠点として位置づけられており、「歴史と人が出会うまち、多様な産業のにぎわいが広がる中心市街地」というテーマのもと、以下の4つの目標を定めています。

【まちづくりの目標】

- ・人々が行き交う交流拠点、にぎわう商業、集積する行政機能が共存する新たな中心市街地づくり
- ・詩情豊かな城下町、人情溢れる商家町の町並み保全・活用による観光拠点づくり
- ・美しい自然環境や歴史環境と調和した住みよいまちづくり
- ・伝統ある地場産業と地域産業、1次産業が融合する新たな産業拠点づくり

凡 例			
拠点商業業務地		田園環境保全地	
商業業務地		自然環境保全地(山地系)	
工業地		自然環境保全地(河川系)	
複合住宅地		広域幹線道路	
一般住宅地		主要幹線道路	
専用住宅地		都市幹線道路	
流通業務地		鉄道	
学術研究地		行政区域界	
公園・緑地		地域界	
公共地		都市計画区域界	

出典：たつの市都市計画マスタープラン（令和3年）



龍野地区 地域別構想図

(5) 地域地区

①市街化区域

近隣商業地域

重伝建地区の大部分

第1種中高層住居専用地域

重伝建地区の一部と龍野新町、上霞城、
日山周辺

第1種低層住居専用地域

下霞城、中霞城周辺

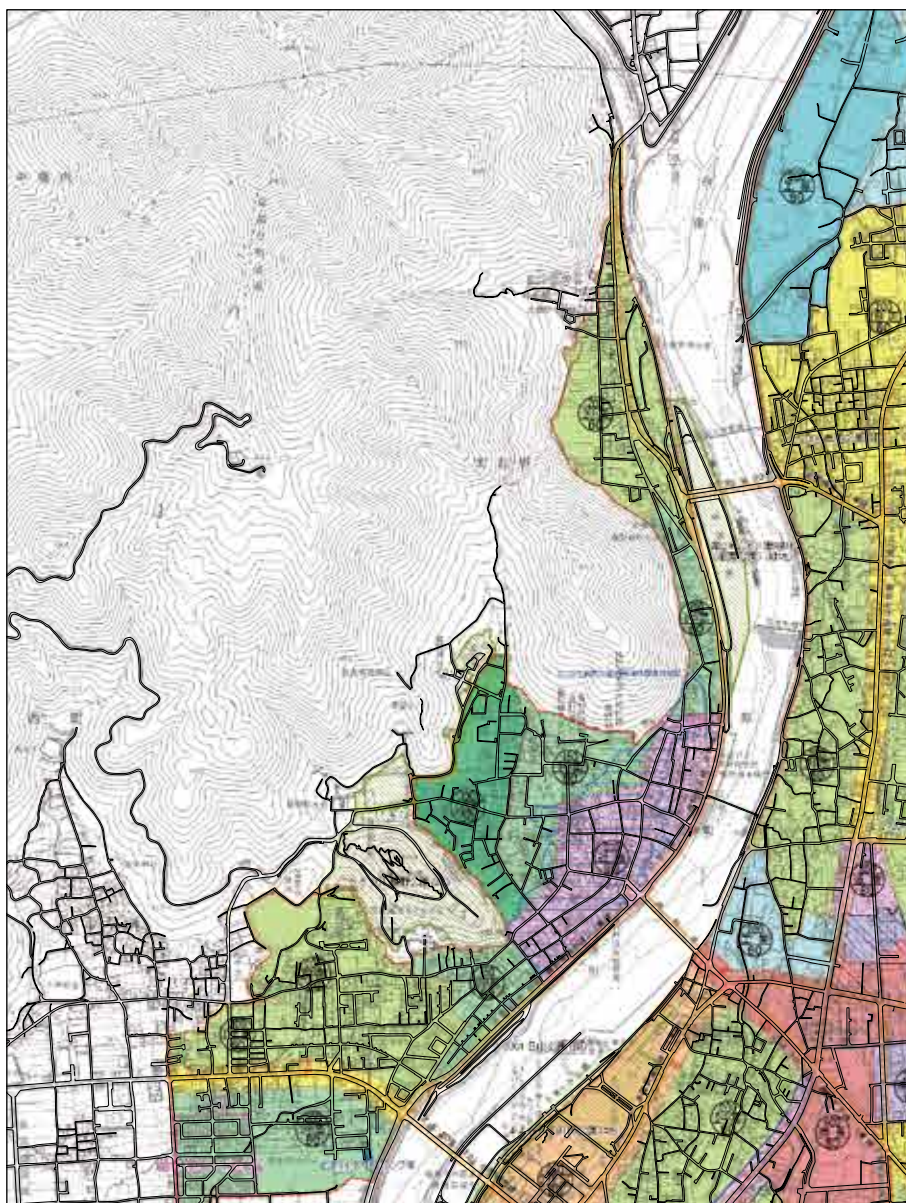
第2種中高層住居専用地域

日山、北龍野の一部

②市街化調整区域

山間部と日山の一部

凡 例				
項 目	表示方法	略 号	容積率	建ぺ率
第1種低層住居専用地域 1低専の高さ制限10m		1低専	100	50
第1種中高層住居専用地域		1中高	200 150	60 60
第2種中高層住居専用地域		2中高	200 150	60 60
第1種住居地域		1住居	200	60
第2種住居地域		2住居	200	60
準住居地域		準住居	200	60
近隣商業地域		近 商	200	80
商業地域		商 業	400	80
準工業地域		準 工	200 200	60 80
工業地域		工 業	200	60
工業専用地域		工 専	200	60



都市計画総括図

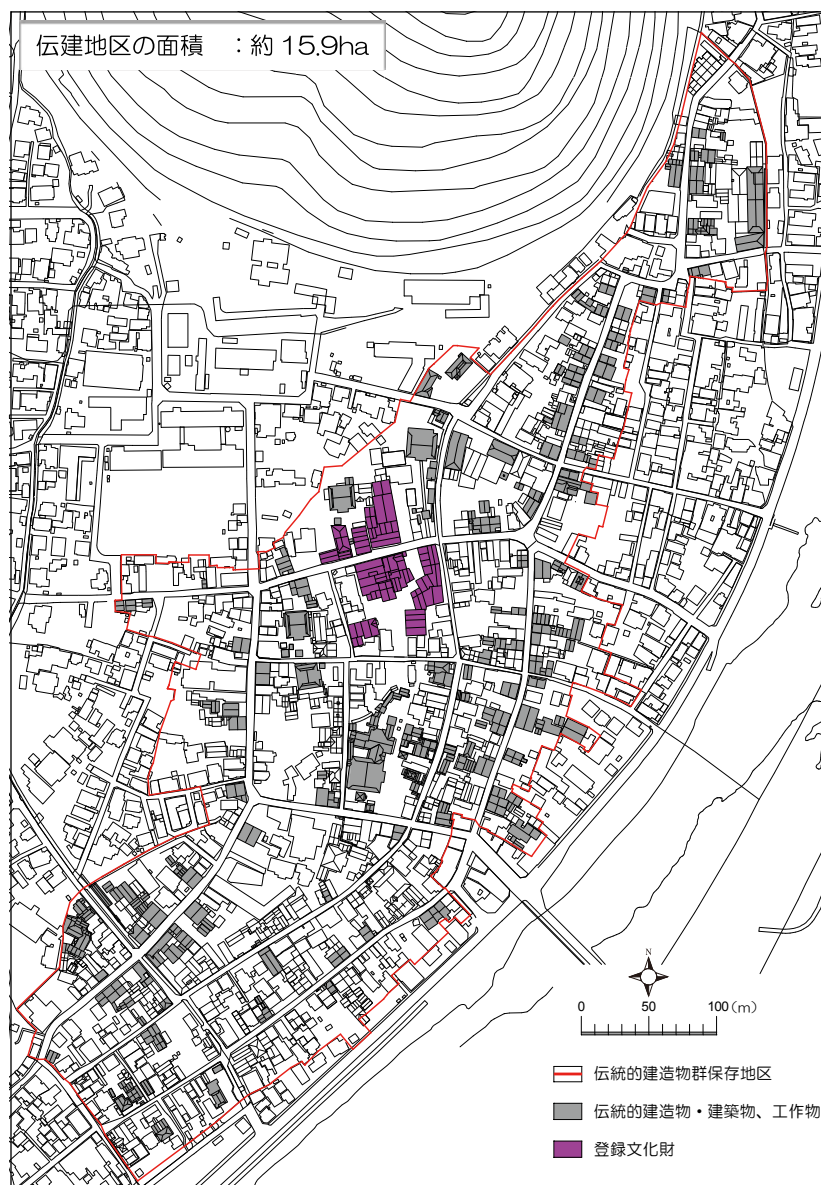
（６）たつの市龍野伝統的建造物群保存地区

保存地区の範囲

たつの市龍野町大手の全域、門の外、上川原、旭町、水神町、下川原、立町、本町、川原町、上霞城の各一部

重要伝統的建造物群保存地区選定の経緯と特徴

- 令和元年 12 月 23 日、龍野城下町の一部である「たつの市龍野伝統的建造物群保存地区」（以下「龍野伝建地区」という。）が、重伝建地区に選定されました。
- 本地区は全国で 119 番目の重伝建地区となり、県内では神戸市（北野町山本通）、丹波篠山市（篠山、福住）、豊岡市（出石）、養父市（大屋町大杉）に次いで、6 地区目の選定になります。
- 本地区は、16 世紀末までに龍野城下に形成され、近世以降、醤油醸造の一大産地に発展した町であり、江戸時代に形成された町割りを残すとともに、軒が低く大壁造の古式な町家や醸造等に関わる重厚な土蔵等がよく残り、中世を起源とする西播磨の城下町としての歴史的風致が高く評価されました。



たつの市龍野伝統的建造物群保存地区区域図（令和 4 年 1 月現在）

(7) たつの市龍野地区歴史的景観形成地区

範囲：鶏籠山、的場山、白鷺山の三山と揖保川に囲まれた平地部分、鶏籠山の南斜面、東斜面を含む区域

概要：景観形成地区を山麓ゾーン、武家地ゾーン、町家ゾーン、川辺ゾーンの4つに分け、それぞれの景観の特性に合わせた基準を定めています。さらに、特にすぐれた景観を有し、人々に親しまれ、景観形成上重要な通りや区域については、伝統的な様式に配慮した基準を定めています。

4つのゾーンの特徴

・山麓ゾーン

緑豊かな山際の景観を整えるため、山麓部の建築物の高さをおさえ、緑で包み込みます。

・武家地ゾーン

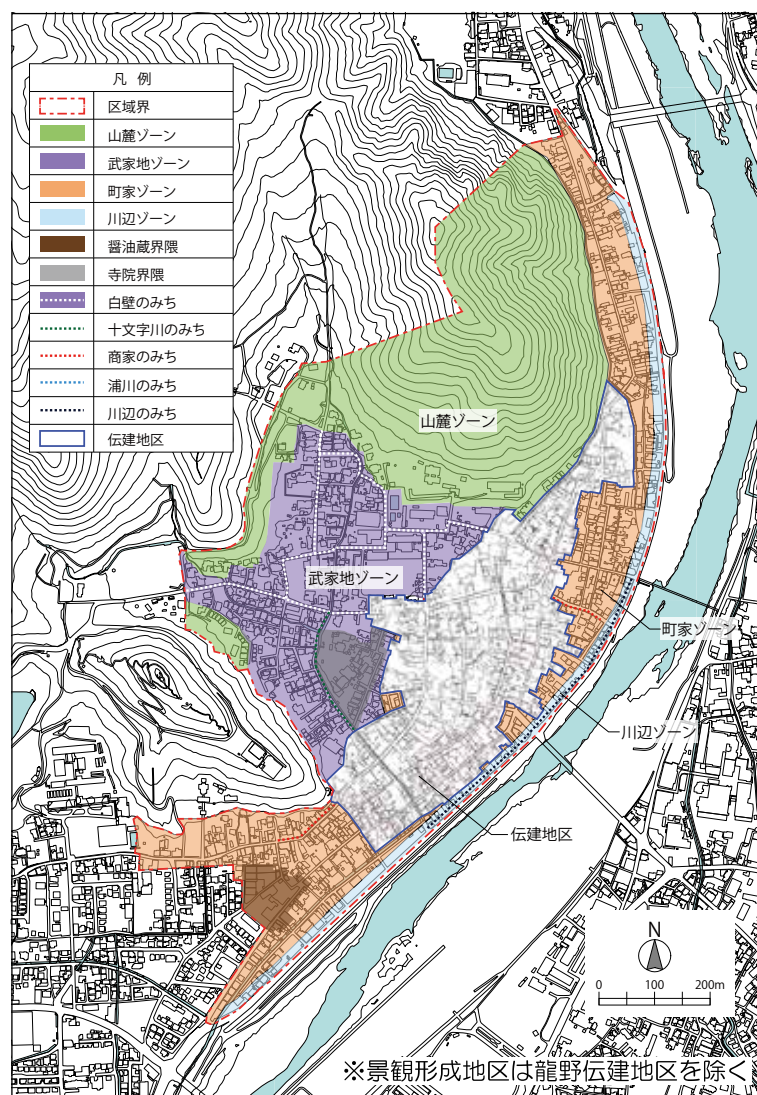
武家地のもつゆとりと落ち着いた雰囲気を保つため、土塀や板塀などを連続させます。

・町家ゾーン

町家のたたずまいを保つため、伝統的な外壁の仕上げや建具の意匠に配慮します。

・川辺ゾーン

背後の山並みと調和し、ゆったりとした河川沿いの景観を育てます。



龍野地区歴史的景観形成地区区域図

2. 龍野地区の観光状況

(1) 観光入込数

龍野地区の主な観光施設は、龍野城、武家屋敷資料館、かどめふれあい館、三木露風生家、醤油の郷大正ロマン館等となっています。近年、民間の飲食店等も多く立地し、来訪者を迎えると同時に、地区住民も利用しています。

各施設への入込数について、武家屋敷資料館、かどめふれあい館は、減少傾向にあります。一方で、醤油の郷大正ロマン館は、平成 29 年に開館以降、増加傾向にあります。

施設名称	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
龍野城	28,948 人	36,512 人	30,294 人	34,479 人	27,855 人
武家屋敷資料館	5,848 人	6,254 人	4,327 人	3,729 人	3,349 人
かどめふれあい館	13,664 人	10,682 人	9,925 人	7,626 人	5,881 人
三木露風生家	8,262 人	9,444 人	9,778 人	9,659 人	6,302 人
醤油の郷大正ロマン館 [※]	-	15,160 人	22,376 人	38,342 人	32,674 人

※醤油の郷大正ロマン館は平成 29 年 10 月 8 日開館

(2) 主なイベントと参加人数

龍野地区では、町家や醤油蔵等を活用した多くのイベントが展開されています。

月	名称	主催	参加人数 (令和元年度)
4 月	龍野さくら祭と武者行列	たつの市 たつの市観光協会 龍野武者行列保存会	130,000 人 (15 日間)
7 月	龍野ふる里祭り	龍野川西商店会	-
9 月	龍野観月の夕	たつの市 たつの市観光協会龍野支部	4,000 人
11 月	オータムフェスティバル in 龍野	オータムフェスティバル in 龍野実行委員会	74,500 人 (3 日間)
2 月	町ちゅう美術館	町ちゅう美術館実行委員会	12,000 人 (3 日間)
3 月	龍野ひなまつり	龍野文化伝承会	10,000 人 [※] (9 日間)

※龍野ひなまつりの参加人数は、平成 30 年度の数値

（３）まちづくりに関わる各種団体

龍野地区では、NPO 法人（特定非営利活動法人）、一般社団法人、商店会などのほか、町並みや文化の保存活動などを行う団体が多数存在します。また、自治会は 18 団体あります。

各団体の活動により、観光入込数が増加し、継続的なイベントの開催が可能になっています。



龍野さくら祭と武者行列



オータムフェスティバル in 龍野



町ぢゅう美術館

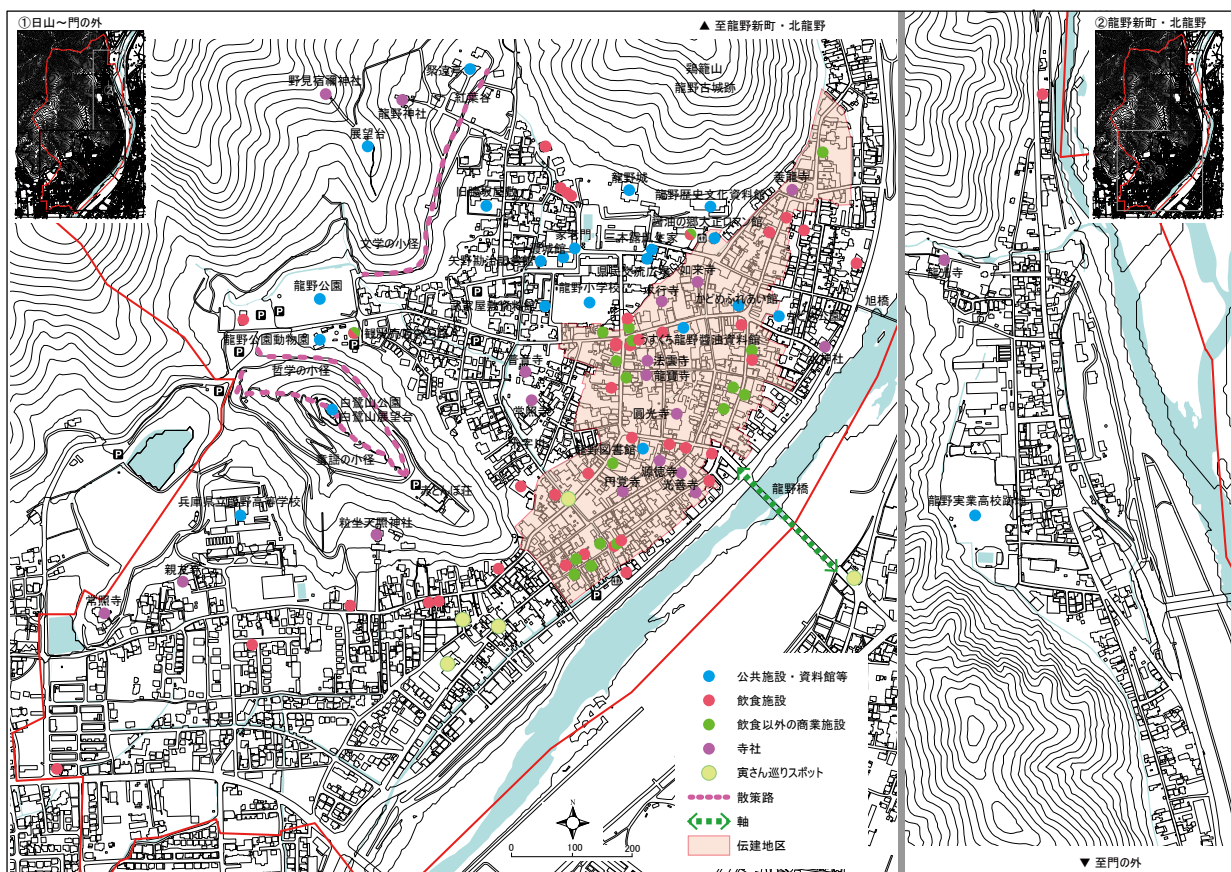


龍野ひなまつり



龍野観月の夕

龍野地区資源マップ



3. 龍野地区のまちづくりの経緯

(1) 龍野地区の町並み保存の歴史

龍野地区のめざすべき基本方向を考える上で、重伝建地区に選定されたことは大きな要素であると言えます。

昭和 40 年代後半から龍野地区の町並みは、後世に引き継ぐべき貴重な歴史文化遺産として認知されるようになりました。昭和 50 年代後半からは、様々な形で町並み保存の取組が行われ、重伝建地区の選定をめざしましたが、この時点では地元合意には至らず、活動は一時頓挫した形となりました。

しかし、龍野地区の自然や歴史、文化、産業、その中で培われた人々の暮らしへの誇りや、それらを継承しようとする地区住民の熱い思いが消えることはありませんでした。平成元年 3 月に発行された「生きた城下町博物館都市 龍野」では、龍野の歴史や伝統産業、自然、歴史的建造物、多才な人材の輩出や人づくりについてまとめられ、今後の龍野地区のまちづくりの方向性を示しています。この後取り組まれる街なみ環境整備事業もこの方向性に基づいて実施されてきました。

こうした中、平成 2 年に旧城下町地区が都市景観形成地区（現在の歴史的景観形成地区）に指定され、平成 12 年には「龍野地区まちづくり協議会」（以下「まち協」という。）が発足し、さらに、まち協の中に伝建部会が発足するなど、重伝建地区選定への動きが再び活発となりました。平成 30 年に重伝建地区選定をめざす住民組織「龍野町並み保存会」が発足し、令和元年 12 月、令和初の国の重伝建地区として選定されるに至りました。



出典：「龍野春秋」

平成 14 年 8 月発行 霞城文化自然保勝会



出典：「生きた城下町博物館都市 龍野」
平成元年 3 月発行 龍野市教育委員会

（２）歴史的町並みと住民の心

このように龍野地区の住民は、一度は頓挫した重伝建地区選定への熱意を捨てることなく、むしろその誇りを時とともに醸成し、龍野地区の持つ自然（山・川）、歴史、文化とともに次世代へ継承する責務を実感しています。これは、半世紀以上にわたって龍野地区の住民の心に灯り続けた「まちづくりの灯（あかり）」です。

そして、龍野地区の自然や歴史、文化とともに町並みが大きな価値を持っており、そこに生活することの価値を享受していることが住民の誇りとなっています。

一方、龍野地区の歴史的町並みは、昭和 60 年に「第 8 回全国町並みゼミ」が開催されるなど、その歴史的価値が全国に広まるとともに、町並みを目的として訪れる人々も少しずつ増えてきました。

重伝建地区に選定されて以降は、新型コロナウイルスの影響もあり、来訪者が大きく増えているような状況ではありませんが、まち歩きを楽しみたいという近隣からの来訪者も一定数見られます。このような状況だからこそ、龍野地区の真の価値を理解する来訪者によって、しっとりとした雰囲気のある町並みが保たれています。

決して人が押し寄せるような観光地ではなく、本来の価値を実感し、龍野地区の観光の在り方を探る良い機会となっています。

（３）龍野地区の現状

龍野地区は、人口の減少、高齢化とともに空き家の増加が続いています。かつては、龍野地区の人々の生活を支えてきた商業も衰退しており、特に高齢者の日常生活は厳しいものとなりつつあります。また、歴史的な町並みは道路が狭く、交通や防災面でも多くの課題が指摘されています。

しかし、龍野地区は、中世から現代に至る歴史の中で、時代的な重層性を持った町並みを形成してきました。その町並みが周囲の自然と一体となって調和しているところが、龍野地区の大きな特徴でもあります。

また、龍野地区は、鶏籠山、的場山、白鷺山の三山と揖保川に挟まれたコンパクトな地区であり、歴史や自然の中を散策するのに適した地区であると言えます。

さらに、龍野地区は、兵庫県内初の公立幼稚園である龍野幼稚園が開設された地であり、三木露風をはじめ、県内初の小児科女医である横山醇（よこやまじゅん）や明治女学校の創立に参加した畠井於菟（とみいおと）など、多くの人材を輩出してきました。これは、近世から子弟の教育に熱心であったこの地区の文化的伝統が生き続けた証であると言えます。



三木露風生家



龍野こども園（旧龍野幼稚園）

このような歴史や自然の強みだけではなく、龍野地区には多くの住民の活動が根付いています。例えば、オータムフェスティバル in 龍野や町ぢゅう美術館、龍野さくら祭と武者行列、龍野ひなまつりなどが行われ、自治会や商店会をはじめ、多くの団体やボランティア等がこれらを支えています。

また、空き家を活用した新しい店舗も増えつつありますが、これらの店舗がいかに龍野地区に根付き、住民と心をひとつにして龍野地区の活性化に寄与できるかが課題となっています。